

平成31年度 (2019年度) 新学術領域研究 (研究領域提案型) 領域計画書

XX年XX月XX日
版

審査希望区分		整理番号	
仮領域番号		領域略称名	
応募領域名			
英訳名			
領域代表者 氏名	(フリガナ)		
	(漢字等)		
所属研究機関			
部 局			
職			
応募領域の 研究概要			
関連研究分野 (小区分)		(1)	(2)
	小区分		
	小区分名		
研究の対象			
過去の採択領域 等からの発展			該当する 該当しない

研究組織

番号	研究区分	研究課題名	研究期間	代表者氏名	所属研究機関 部局 職	構成 員数

研究区分		平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	合計 [千円]
計画研究							
小計							
公募研究							
内訳		-					-
採択目安件数		-	件	件	件	件	
小計		-					
合計							

領域代表者	住所		
	電話番号		
	Fax番号		
	Email		
事務担当者	氏名	(フリガナ)	
		(漢字等)	
	所属研究機関		
	部 局		
	職		
	住所		
	電話番号		
	Fax番号		
	Email		

1 領域の目的等

(1) 目的

応募領域の全体構想及び研究目的について、公募要領の「目的」及び「対象」に合致することが明確になるよう、特に次の点について焦点を絞り具体的かつ明確に記述すること。(5頁以内、項目の区切り位置の変更可。)

1) 研究の学術的背景

- ・応募研究領域の着想に至った経緯
- ・関連するこれまでの研究活動(研究水準の現状・実績)

2) 対象とする学問分野

- ・本領域が対象とする基礎研究分野(基礎から応用への展開を目指す分野を含む。)及び本審査区分を選択した理由
- ・本提案のどういった点が、「①既存の学問分野の枠に収まらない新興・融合領域の創成を目指すもの」、又は「②当該領域の格段の発展・飛躍的な展開を目指すもの」のいずれかに該当すると判断したのか
- ・対象となる学問分野を融合させて、どのような革新的・創造的な学術研究の発展が期待される研究領域の創成・発展に資するのか

3) 本領域の重要性・発展性

- ・本領域が「(i)国際的優位性を有する(期待される)もの」、又は「(ii)我が国固有の分野もしくは国内外に例を見ない獨創性・新規性を有する(期待される)もの」、又は「(iii)学術の国際的趨勢等の観点から見て重要であるが、我が国において立ち遅れており、当該領域の進展に格段の配慮を必要とするもの」のいずれであるかについて、国内外の動向、比較・位置付け、国際的水準から見た現状等を含めて記述

4) 研究期間終了後に期待される成果等

- ・研究期間終了後に期待される成果
- ・どのような学術的又は社会的意義・波及効果等が期待されるのか

5) 過去の採択領域等からの発展性等(該当する研究領域のみ)

- ・過去に「新学術領域研究(研究領域提案型)」又は他の研究費において採択された研究領域を更に発展させる提案のうち、「新学術領域研究(研究領域提案型)」又は「特定領域研究」において採択された研究領域を発展させる提案については、当該研究費で期待された成果が十分得られているか、更に格段の発展・飛躍的な展開を図る内容となっているか(中間評価・事後評価(当該研究費の配分機関が行うものに限る。))結果についても記述
- ・応募情報(Web入力項目)において「該当しない」を選択した場合はその旨を記述

1) 研究の学術的背景

2) 対象とする学問分野

3) 本領域の重要性・発展性

4) 研究期間終了後に期待される成果等

5) 過去の採択領域等からの発展性等（該当する研究領域のみ）

(2) 準備状況等

本欄には、特に次の点について焦点を絞り具体的かつ明確に記述すること。(1頁以内)

- ①今までに関連のテーマで過去に新学術領域研究(研究領域提案型)又は特定領域研究に応募したことがある場合は、その応募内容と審査コメントを含む審査結果、及びその後の主な変更点・進展について記述すること。
- ②過去に「新学術領域研究(研究領域提案型)」又は「特定領域研究」以外の研究費において採択された研究領域を更に発展させるものについては、当該研究費で期待された成果が十分得られているか、更に格段の発展・飛躍的な展開を図る内容となっているか(中間評価・事後評価(当該研究費の配分機関が行うものに限る。))結果についても記述)を記述すること。
- ③学会活動、その他の方法による応募に至るまでの準備研究・事前調査の状況を記述すること。

(3) その他

本欄には、本領域の応募に当たって、上記「(1)目的」、「(2)準備状況等」に記載できなかった事項で、本領域の必要性等について記載すべき事項がある場合に、自由に記述すること。(1頁以内。)

2 領域推進の計画・方法

(1) 領域推進の計画の概要

当該領域の推進に当たっての、

- 1) 基本的な研究戦略（研究項目を設ける場合にはその考え方を含む）
- 2) 領域における具体的な研究内容（研究項目を設ける場合には項目ごとの研究内容を含む）
- 3) 各研究項目、各計画研究の必要性及び研究項目間、計画研究間での有機的連携を図るための具体的方法について概念図等を用いて示すこと。また、平成31年度と平成32年度以降に分けて研究計画・方法を示すこと。（2頁以内、項目の区切り位置の変更可。）

概念図の記入要項

概念図は本欄の範囲内で記載すること。

なお、概念図においては、研究項目間、計画研究間の関係を示し、領域として何を目指すのかを明確に示すこと。

1) 基本的な研究戦略

2) 領域における具体的な研究内容

3) 各研究項目、各計画研究の必要性及び研究項目間、計画研究間での有機的連携を図るための具体的方法

(2) 領域のマネジメント体制 (3頁以内、項目の区切り位置の変更可。)

1) 領域代表者を中心とした領域推進に十分貢献できる研究者による有機的な連携体制

領域推進に十分貢献できる研究者により組織が構成されているかについて記述すること。また、必要に応じ、概念図を示すこと。

概念図の記入要項

概念図は、必要に応じ本欄の範囲内に記載すること。

なお、概念図においては、領域全体の組織図等を用いて、総括班、各研究組織の役割及び、活動内容等を明確に示してください。

2) 領域代表者の領域推進に当たってのビジョン及びマネジメント実績

複数の研究者をまとめ、領域推進に当たって研究組織の総合力を発揮するためには、研究とは別に、リーダーである領域代表者のマネジメント能力が求められます。

領域代表者が、どのような構想を持って円滑な組織運営をし、領域を推進するかについて、基本的な考え方を明らかにすること。また、過去の異なる研究組織におけるマネジメント実績（新学術領域研究（研究領域提案型）や特定領域研究、他の研究費に係る研究組織における企画・運営、国際学会の企画・運営、各学会の運営、共同利用研究所等における研究計画・運営等）がある場合、それらについて示すこと。なお、領域代表者が計画研究（総括班を除く）のいずれにも、研究代表者、研究分担者又は研究協力者として参画しない場合は、実質的な研究を行わない組織とされている総括班にのみ属している状況において研究領域全体の把握、マネジメントを行うための方策について、具体的に記述すること。

3) 総括班、各研究組織の役割及び活動内容等

- ・領域を推進するに当たっての総括班の運営方針、役割、研究組織の構成、個々の構成員の役割、活動内容等について基本となる考え方を説明すること。構成員については、構成員の氏名、専門分野及び研究代表者・研究分担者の別を記入すること。その際、どのように本領域の全体的な研究方針を策定し、各研究項目、各計画研究の企画調整等を行っていくのか明らかにすること。
- ・総括班において、応募領域の研究支援活動（本領域内で共用するための設備・装置の購入・開発・運用、実験試料・資材の提供等）を効率的かつ効果的に行う場合には、その必要性、役割及び活動組織について併せて記述すること。

1) 領域代表者を中心とした領域推進に十分貢献できる研究者による有機的な連携体制

2) 領域代表者の領域推進に当たってのビジョン及びマネジメント実績

3) 総括班、各研究組織の役割及び活動内容等

(3) 領域推進の計画・方法の妥当性 ① (2頁以内、項目の区切り位置の変更可。)**1) 領域及び計画研究の具体的な達成目標**

研究期間終了時の達成目標、学術上の意義・インパクトを含めて分かりやすく記述すること。

2) 1) を実現する具体的な計画・方法（共同研究、若手を含む研究人材の育成、設備の共用化等の取組を含む）

本欄には、研究目的を達成するための具体的な研究計画・方法について、平成31年度の計画と平成32年度以降の計画に分けて、適宜文献を引用しつつ焦点を絞り、具体的かつ明確に記述すること。ここでは、研究が当初計画どおり進まないときの対応など、多方面からの検討状況を述べるとともに、異分野融合により、どのように研究を実施していくのかについても記述すること。

3) 国際的なネットワークの構築、国内外の優れた研究者との共同研究、海外の研究機関との連携、国内外への積極的な情報発信など、「国際活動支援」を実施することにより考慮している場合はその取組を記述すること。なお、「国際活動支援」を実施しない場合は、その理由等を記述すること。

1) 領域及び計画研究の具体的な達成目標**2) 1) を実現する具体的な計画・方法（共同研究、若手を含む研究人材の育成、設備の共用化等の取組を含む）**

- 3) 国際的なネットワークの構築、国内外の優れた研究者との共同研究、海外の研究機関との連携、国内外への積極的な情報発信などの取組

（3）領域推進の計画・方法の妥当性 ②

4）各計画研究（総括班を除く）の研究組織及び研究内容の概要

各計画研究の研究課題名、研究組織（予定される研究者数、研究代表者、研究分担者の氏名・所属・職・専門分野・研究役割分担）及び研究内容の概要について、領域全体の推進に当たっての役割及び必要性が明確になるように分かりやすく記述すること。作成に当たっては、計画研究ごとに1/2頁程度で作成すること。

また、応募の段階で、研究期間の途中から計画研究を追加する計画は認めません。

(3) 領域推進の計画・方法の妥当性 ③

5) 公募研究の役割 (1頁以内)

公募研究は、領域設定期間の1年目に平成32～33年度分、3年目に平成34～35年度分の公募を行います。

応募領域の推進に当たって、公募研究が本領域においてどのような位置付けにあり、領域全体として、どのような研究を期待するのかについて記述すること。また、何件程度の研究課題を必要とし、1研究課題当たり、どの程度の研究経費が必要かを示すとともに、公募研究の金額を設定する際は、研究遂行が十分可能な研究経費を計上すること。計上の際は、次の最低基準のどちらかを上回るよう設定すること。

・1年目と3年目それぞれの採択目安件数が10件を上回ること

・公募研究にかかる経費の総額(平成32～35年度の合計)が領域全体の研究経費(5年総額)の10%を上回ること

なお、応募領域の公募研究の配分額の総額については、領域計画書に記載の「公募研究」の「研究経費」の範囲内で設定されます。また、重複制限により、同一研究者が公募研究の研究代表者として受給できる件数は2件(ただし、同一領域に2件応募することはできません。)に限ることとなっているため、留意すること。

3 研究経費の妥当性

(1) 研究期間との関連性を含めた研究経費の必要性

応募領域の研究内容及び研究体制等を踏まえ、応募する研究経費の必要性・妥当性について研究期間との関連性を含めて記述すること。なお、研究期間内の特定の年度に重点的に研究費を配分する場合、又は年間の応募研究経費の総額（総括班、公募研究を含む。）が、応募上限の目安である3億円を超える場合は、年度ごとに3億円を超える理由、その必要性・妥当性を記述すること。（1頁以内）

なお、1年度目は計画研究（総括班を含む。）のみが研究等を開始することになるため、注意すること。

(2) 各計画研究の費目別内訳及び主要な設備備品費

本欄については、可能な限り2頁以内で記入すること。ただし、必要があれば3頁になっても構いません。

ここでの計画研究には、総括班を含みます。

- ①各計画研究の費目別の内訳について、記入例を参照の上、計画年度別に簡潔に記入すること。その際、どの計画研究のものかが分かるように作成すること。また、最後に各費目別の合計を記入すること。
- ②各計画研究の主要な設備備品費については、装置名、数量、予定価格、設置年度、設置予定機関、設置予定機関の現有設備が活用できない理由等について記入すること。なお、領域内で共用するための装置・設備を購入するにもかかわらず、各計画研究において、類似の装置・設備の購入等を行う場合には、その理由・関係性を記述すること。

4 主要研究業績

領域代表者、研究代表者及び研究分担者がこれまでに発表した論文、著書、産業財産権等、招待講演のうち本研究に関連する重要なものを、領域代表者又は研究代表者においては10件程度、研究分担者においては5件程度選定し5頁以内で記入すること。なお、学術誌へ投稿中の論文を記入する場合は、掲載が決定しているものに限る。

学術誌論文の場合、論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年(西暦)を記入すること。以上の各項目が記載されていれば、各項目の順序の入替えや著者名が多数にわたる場合は、主な著者を数名記入し以下を省略(省略する場合、その員数と、掲載されている順番を○番目と記入)することは問題ない。なお、領域代表者及び研究代表者には二重下線、研究分担者には一重下線を付すこと。また、corresponding author には左に*印を記入すること。

(1) 領域代表者

(2) 各計画研究の研究代表者及び研究分担者